

さくら 2012 秋

発行
社会福祉法人 東桜会
第 37 号
〒420-0962
静岡市葵区東 527 番地の 1
特別養護老人ホーム 麻機園
TEL 054(247)8739
FAX 054(247)8640

敬老会が開催されました

一年の中で最大の行事「敬老会」が9月8日開催されました。

皆様、いつもよりおしゃれをして、お化粧品もバッチリ、背中をピンと伸べて式典に出席されました。式典では普段の生活にはない厳かな雰囲気緊張している方も多く見受けられました。とくに謝辞を任されていた入所者様は、練習通りに上手くいくのか不安で緊張されていましたが、本番はさすが年の功、すばらしい謝辞を披露することができました。

敬老会は、3ヶ月前から準備が始まりました。なかでも毎年恒例の新人職員によるアトラクション。何をやるかなかなか決まらず時間だけが過ぎていき、行事担当者としてはどうなってしまうのかとても不安でした。しかし、多くの先輩職員からのアドバイスもあり、仕事を終えてから夜遅くまで何度も練習を重ね、本番では新人7人が1つになり、入所者の方々からはもちろん、御家族の皆様からも盛大な拍手を頂くことができました。

式典後の食事会では、職人さんが目の前で握るお寿司の食べ放題です。「マグロ!」「タイ!」などあちこちで注文する大きな声が飛び交い、多めに用意した寿司ネタがなくなるほどの勢いでした。

敬老会の後数日は入所者の皆様から「すごく良かったよ」「ありがとう」「あなたの役かわいかったよ」など新人職員達に、感想や賛辞の声をかけて頂きました。入所者にとってはもちろん、新人職員にとっても自信と良い経験になったすばらしい敬老会でした。

麻機園 寮母 森下恵美



第一部 式典



第二部 わらしべ長者



第三部 寿司バイキング

秋の遠足～日本平動物園～

10月3日、秋の遠足で日本平動物園へ行って来ました。行きのバスの中では「久しぶりに外へ出たよ。」と言って、車窓からの景色を楽しんでいました。園内に入るとまず記念撮影。その後、新しくできた猛獣館299へ入り、アザラシの水槽に大感激。シロクマのロッキーとバナラがじゃれ合いながら水遊びをしている姿を観て「かわいいね。」と皆様、満面の笑みで見学していました。

お昼には、新しくできた休憩所でお弁当を食べました。お弁当は厨房の富士産業さんが朝から準備してくれた“特製遠足弁当”“外で食べるとおいしいね。”と言って皆様残さず食べられました。

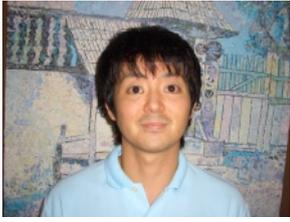
急な登り坂、下り坂で少々たいへんな事もありましたが、心地よい気候に恵まれ、気持ちよく園内を一周する事ができ、楽しいひとときを一緒に過ごすことができました。

「また、行こう!」「次はどこに行く?」と帰りのバスの中での皆様の声。私も、次回の計画に思いを巡らせ帰路に就きました。

麻機園相談員 小長井 菜津美



新人紹介



はじめまして。8月に入職しました伊村好正です。以前は訪問入浴で3年間働いていました。まだ2ヶ月で慣れていないですが、ベテランの先輩方が多いので、基礎からしっかり教えていただいています。1日も早く仕事を覚えて入所者の皆様と楽しく過ごしていきたいと思っています。これからよろしくお願いします。趣味は、サッカー観戦。清水エスパルスが大好きです。

麻機園 寮母 伊村 好正

暑い！熱い！夏祭りでした！

8月4日、「夏祭り」が行われました。去年は雨天のため、麻機園の室内での開催でしたが、今年は、祭りに相応しい晴天に恵まれました。夏祭りの当日、朝から入所者の皆さんは、早く外に行こうとソワソワして、飛び出して行ってしまうのではないかなというような熱気と勢いでした。

15:00の開始と同時に、皆さん、目的のお店に一目散。ゲームや飲食、踊りや太鼓見物と思い思いに過ごされました。また、お孫さんも参加して、親子3代で楽しまれた方など、多くの御家族の皆様にも祭りを一緒に盛り上げていただきました。

このようなイベントは、入所者の皆さんにとってのレクリエーションというだけではありません。我々職員にとっても、部署を超えてのチームワークの構築、入所者やその御家族の皆様との交流、思い出作りなどいろいろなメリットがあります。今後も続けていきたい大切なイベントです。今年、残念ながら参加できなかった御家族の皆様、ぜひ来年はお時間を作っていただき夏祭りに参加していただきたいと思います。

麻機園 寮母 村松 翔一



お世話になりました

第二子出産の為、11月15日で退職することになりました。

専門学校を卒業し入職した私にとって麻機園は初めての職場でした。

入所者の皆さんの細かい変化や思いに気づくことが出来るような介護士になりたいと思いこの仕事に就きましたが、初めの頃は覚えることが多く、忙しい中で上手く仕事ができずに入所者の皆さんに目を向けられる余裕もなく頼りない介護士だったと思います。

「時間に追われてはいけない」と先輩にアドバイスされ、時間がある前に自分のやらなければならないことを考える。どんなに忙しくてもやるべきことや頼まれたことを忘れないという事を心掛けながら皆さんと関わらせて頂いた中で、介護士としても一人の人としても少しずつ成長できたと思います。

至らない所も沢山あったと思いますが、14年間皆さんと一緒に楽しい時間を過ごせた事に感謝しています。

ありがとうございました。

麻機園 副寮母長 釘持綾子

私が介護の道を目指した理由

小林麻衣

私は、物心からついた時から、「人と関わることのできる仕事に就きたい。」と思っていました。大きくなるまで、保育士や教師など様々な職業を夢みていましたが、いつからか、今の介護の道を目指すようになっていました。

介護という仕事に初めて出会ったのは、中学一年生の時です。私の母は、脳梗塞で倒れてしまい、一命はとりとめたものの、その時の後遺症で右半身に麻痺が残ってしまいました。私や父が日中家にいない時に母は一人で生活ができません。ヘルパーさんが家に来てくれるようになり、それが初めて、介護という仕事に出会ったきっかけです。今まで介護職を知らなかった私は、初めてみる職業に大きな衝撃を受けました。上手く身体が動かせずもどしくイライラしている母に、寄り添い励ます。そして母に笑顔が戻り、またやる気を取り戻す。そういう姿を見ていて、いつの間にか、私も将来こういう仕事をしてみたいと思うようになっていました。

母は徐々に体力が落ちたり、新たな病気が発覚したことで、病院に入院することになってしまいました。そんな時もヘルパーさんは、母を気使い、お見舞いに来てくれるなど、いつまでも私たち家族を気にかけて下さいました。しかし、その頃の私は、そんな優しいヘルパーさんのように母に接してあげることができず、ついきつく接してしまう事もありました。

そして、私が高校の進路を決める時期に母は亡くなりました。介護という道を目指すようになったのは、すべて母のお陰で、母が与えてくれたのだと思います。今、私は母に本当に感謝しています。天国の母に恥じぬよう、笑顔で入所者の皆様と接し、毎日楽しく過ごしていきたいです。